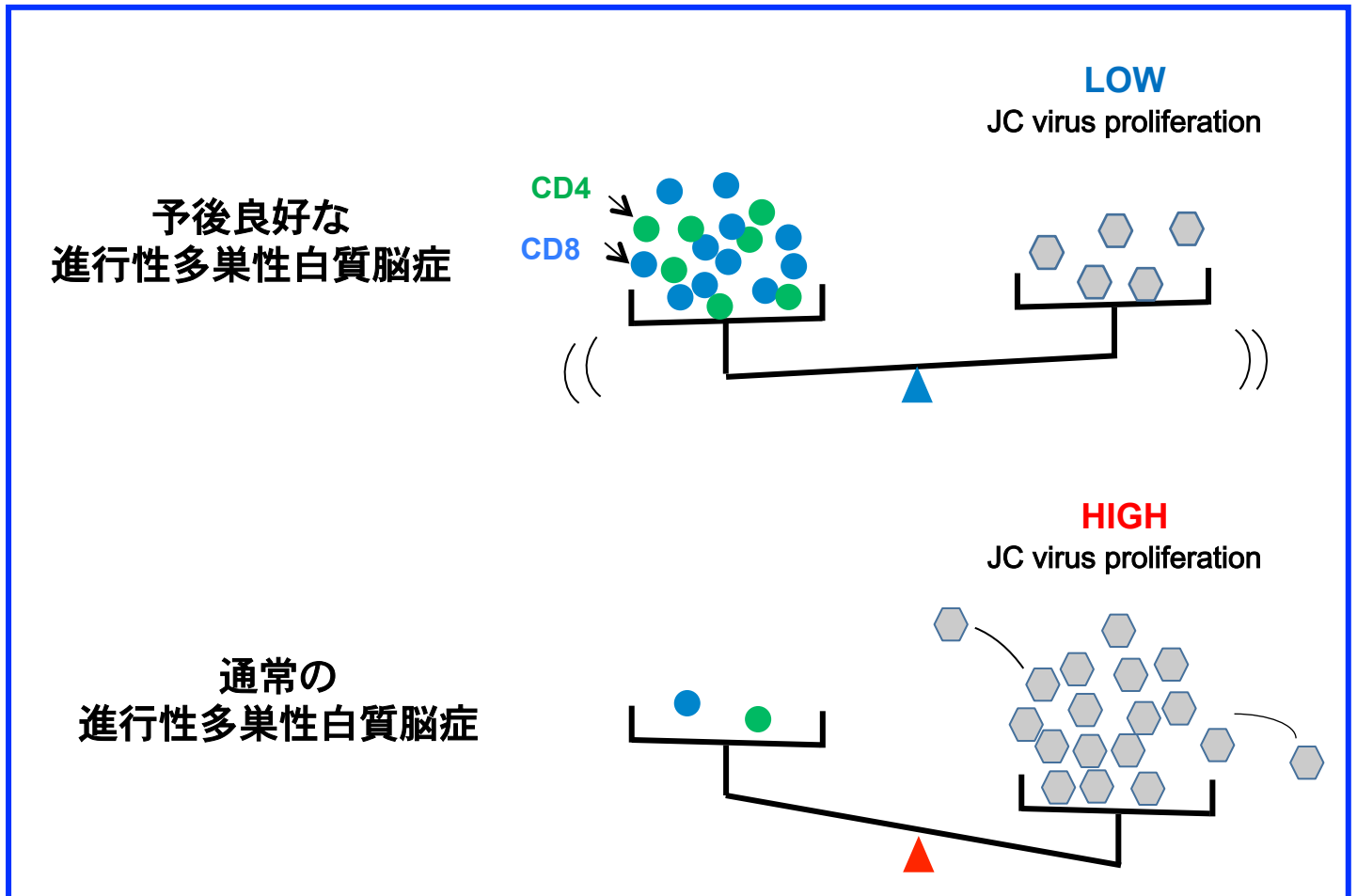


進行性多巣性白質脳症

JCウイルス増殖と宿主免疫応答のバランスを考える

研究分担者: 東京医科大学 医師・学生・研究者支援センター/人体病理学分野 宍戸-原 由紀子



解説

1. 進行性多巣性白質脳症の多くの症例では、病理所見にて、炎症細胞浸潤は極めて乏しい。
2. 稀に、高度な炎症を伴う症例があり、予後良好である。
3. 予後良好症例では、CD4/CD8 ratioの保たれたT細胞浸潤が認められる。
4. 脳生検診断において、浸潤する炎症細胞浸潤の評価に基づき、予後評価ができる可能性がある。
5. また、治療においても、宿主の細胞免疫応答を正常に機能させることが重要である。